

2021年11月27日（土）第31回 学習会まとめ

提案① 愛知県刈谷市富士松南小学校 中野 真悟 先生

『指導と評価の一体化』を実現する評価の在り方に関する実践研究

日本道徳教育学会神奈川県支部第31回学習会（於 オンライン）

「指導と評価の一体化」を実現する 評価の在り方に関する実践研究

愛知県刈谷市立富士松南小学校

中野真悟

令和3年11月27日

1. 問題と目的

中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月）
（以下、「学習評価の在り方（報告）」）によると、

☆学習評価の改善の基本的な方向性

- ①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ②教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直ししていくこと
（下線は筆者）

1. 問題と目的

道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議の「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）」（平成28年7月）（以下、「評価等（報告）」）では、これらの改善の方向性の詳細が、全ては示されていない。

↓そこで…

道徳科の評価について、パフォーマンス評価に着目して、道徳科の「指導と評価の一体化」を実現する評価の在り方について考察する。

2. 道徳科の評価と各教科等の評価

（1）資質・能力の3つの柱の捉え方

評価等（報告）では、
「中央教育審議会の審議においては、各教科等で育成する資質・能力を三つの柱で整理し、教育課程全体を構造化することが目指されている」
「道徳性の育成は、資質・能力の三つの柱の土台であり目標でもある「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」に深く関わる」

↓ 一方で…

「資質・能力の三つの柱や道徳的判断力、心情、実践意欲と態度のそれぞれについて分節し、観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ろうとすることは、児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目的とする道徳科の評価としては、妥当ではない」（下線は筆者）

2. 道徳科の評価と各教科等の評価

（2）評価等（報告）における「指導と評価の一体化」

評価等（報告）では、評価の目的を大きく2つに分けている

「評価とは、

児童生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側から見れば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの」（下線は筆者）

↓ 一方で…

「学校における指導の改善を図る」ことには、議論が尽くされていない。

2. 道徳科の評価と各教科等の評価

（2）評価等（報告）における「指導と評価の一体化」

また、評価等（報告）では、

「道徳科の評価においても、指導の効果を上げるため、学習状況や指導を通じて表れる児童生徒の道徳性に係る成長の様子を、指導のねらいや内容に即して把握する必要がある。」（下線は筆者）

↓ 一方で…

「道徳性に係る成長の様子把握に関する評価規準の作成方法や、学習評価の事例は、記載されていない。

2. 道徳科の評価と各教科等の評価

（3）道徳科における「評価の観点及びその趣旨」

各教科等では、「内容のまとまりごとの評価規準」は、学習指導要領の目標に照らして観点別学習状況の評価を行うに当たり、「2 内容」の記載事項の文末を「～することから「～している」と変換したものに等になっている。

↓ ということは…

道徳科でも、

「内容のまとまりごとの評価規準」は、

「第2 内容」の記載事項の文末を「～することから「～している」と変換したものに等になることが、各教科等との整合性を考える上で妥当であると思われる。

2. 道徳科の評価と各教科等の評価

（3）道徳科における「評価の観点及びその趣旨」

各教科等の「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」（以下、「参考資料」）では、

第2編で「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の手順を示している。各教科等では、「評価の観点及びその趣旨」は、「学習指導要領に示された教科及び学年（又は分野）の目標」を踏まえている。

↓ ということは…

道徳科でも、

「学習指導要領に示された教科及び学年（又は分野）の目標」を踏まえれば、

「評価の観点及びその趣旨」に類するものを、

「評価の観点及びその趣旨」として作成しようと考えられる（観点別評価が妥当ではないため）。

2. 道徳科の評価と各教科等の評価

(4) 道徳科における「評価の視点及びその趣旨」

小学校の「B 主として人との関わりに関すること」の「親切、思いやり」の

(第3学年及び第4学年)ならば、

小学校学習指導要領第3章「第2 内容」が

「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」(下線は筆者)

↓ だから…

「評価の視点及びその趣旨」は、

「相手のことを思いやり、進んで親切にしている。」

のように作ることが考えられる。

(このように変換して作ることが妥当であるかや、どう評価するのかは、後述)

3. パフォーマンス評価

(1) 道徳科の「指導と評価の一体化」を実現する評価

小中学校学習指導要領には、

「児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。

ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」(下線は筆者)

↓ だから…

道徳科の「指導と評価の一体化」に必要なのは、

「道徳性に係る成長の様子を把握し、指導に生かせるような、数値などによらない評価」

と考えられる。

3. パフォーマンス評価

(1) 道徳科の「指導と評価の一体化」を実現する評価

指導要録には「行動の記録」があり、

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育で養われる道徳性の評価である。

これを「道徳性に係る成長の様子を把握できる評価」と捉えることも可能である。

↓ とはいえ…

児童生徒から表出した道徳的行為は、内面的な資質である道徳性に基づいた行動なのか、

賞罰を期待した行動なのかという動機付けが判断できないので、

「評価の視点及びその趣旨」を、

道徳的行為をとったかだけで評価するのは問題がある。

→パフォーマンス評価だろうか？

3. パフォーマンス評価

(2) 道徳科におけるパフォーマンス評価

中央教育審議会の答申(平成28年12月)では、

「パフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、

多面的・多角的な評価を行っていく必要がある。」

と、パフォーマンス評価を取り入れる意義を主張している。

↓ ところで…

パフォーマンス評価とは、

「一般的には、思考する必然性のある場面で生み出される

学習者の振る舞いや作品(パフォーマンス)を手がかりに、

概念の意味理解や知識・技能の総合的な活用力を質的に評価する方法」

3. パフォーマンス評価

(3) 広義のパフォーマンス評価：児童生徒の学習状況の把握

このようなルーブリックを用いて「パフォーマンス評価を行えば、

指導の改善につながるような「児童生徒の学習状況の把握」ができる。

↓ ということは…

道徳科の「指導と評価の一体化」の実現に資すると考える。

↓ とはいえ…

これは、児童生徒の「道徳性」を分析的に捉える観点別評価ではないことに留意されたい。

3. パフォーマンス評価

(4) 狭義のパフォーマンス評価：道徳性に係る成長の様子の把握

狭義のパフォーマンス評価とは、

「現実的で真実味のある(「真正な<authentic>」)場面を設定するなど、

学習者の「パフォーマンスを引き出し実力を試す評価課題(パフォーマンス課題)」を設計し、

それに対する活動のプロセスや成果物を評価する、「パフォーマンス課題に基づく評価」

↓ ということは…

評価等(報告)で求められている

「児童生徒の学習状況の把握」と、「道徳性に係る成長の様子の把握」のうち、

「道徳性に係る成長の様子の把握」に該当する評価が行えるのでは？

3. パフォーマンス評価

(4) 狭義のパフォーマンス評価：道徳性に係る成長の様子の把握

石井(2017)によると(再掲)、

「パフォーマンス全体を一まとりのものとして採点する「全体的ルーブリック」としても作成できますし、

一つのパフォーマンスを、複数の観点で捉える「観点別ルーブリック」としても作成できます。

一般に、全体的ルーブリックは、

学習過程の最後の総括的評価の段階で全体的な判断を下す際に有効で、

他方、観点別ルーブリックは、パフォーマンスの質を向上させるポイントを明示するものであり、

学習過程での形成的評価に有効」(下線は筆者)

↓ ということは…

道徳科の狭義の「パフォーマンス評価は、全体的ルーブリックが適しているのでは？

3. パフォーマンス評価

(4) 狭義のパフォーマンス評価：道徳性に係る成長の様子の把握

石井(2018)によると、

「従来の学校教育では、子どもたちはドリル(知識・技能の訓練)ばかりして、

ゲーム(学校外や将来の生活で遭遇する本物の、あるいは本物のエッセンスを保持した活動：

「真正の学習)を知らずに去ることになってしまっています(中略)

学校では学習の文脈が現実世界の文脈とかけ離れているために、

学校でしか通用しない知識や学力になっている」

「パフォーマンス評価は、

「真正の学習」を創り出しながら、「使える」レベルの学力を評価するもの」

3. パフォーマンス評価

(4) 狭義のパフォーマンス評価：道徳性に係る成長の様子の把握

これらを踏まえて、道徳科の「真正の学習」を、「学校外や将来の生活で遭遇する本物の、あるいは本物のエッセンスを保持した、現実的で真実味のある活動」と考える。

↓ そうすると…

道徳科における真正性は、学習指導要領に記載される道徳科の内容である、内容項目に基づく必要がある。

↓ そして…

「道徳性に係る成長の様子の把握」に関する狭義のパフォーマンス評価は、様々な場面の目標・ねらいにおいて評価することが妥当なのでは？

3. パフォーマンス評価

(4) 狭義のパフォーマンス評価：道徳性に係る成長の様子の把握

①学校の道徳教育の重点目標

学校の道徳教育の重点目標からルーブリックを作成するには、まず、内容項目の文言から、基本となるルーブリックを作成し、そのあとで、学校の道徳教育の重点目標をふまえてそれをアレンジする。

3. パフォーマンス評価

(4) 狭義のパフォーマンス評価：道徳性に係る成長の様子の把握

②学年の道徳教育の重点目標

学年の道徳教育の重点目標からルーブリックを作成するには、まず、内容項目の文言から、基本となるルーブリックを作成し、そのあとで、学年の道徳教育の重点目標をふまえてそれをアレンジする。

3. パフォーマンス評価

(4) 狭義のパフォーマンス評価：道徳性に係る成長の様子の把握

③複数時間のユニット学習・総合単元的な道徳学習

複数時間のユニット学習や総合単元的な道徳学習を組み合わせ、単元全体を通して学ぶテーマがあるなら、それが「単元の重点目標」となる

↓ だから…

単元の重点目標からルーブリックを作成するには、まず、内容項目の文言から、基本となるルーブリックを作成し、そのあとで、単元の重点目標をふまえてそれをアレンジする。

3. パフォーマンス評価

(4) 狭義のパフォーマンス評価：道徳性に係る成長の様子の把握

④道徳科の授業のねらい

道徳科の授業のねらいの書き方は様々だが、「～な判断力を高める。」「～な心情を育てる。」「～しようとする実践意欲を高める。」のようなねらいが多いので、この場合に限定して考察する。

↓ そうすると…

道徳科の授業のねらいからルーブリックを作成するには、「～な判断をしている。」「～な心情をもっている。」「～する実践意欲をもっている。」などのルーブリック案が考えられる。

3. パフォーマンス評価

(4) 狭義のパフォーマンス評価：道徳性に係る成長の様子の把握

④道徳科の授業のねらい

↓ しかし…

評価等（報告）では、（下線は筆者）
「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度のそれぞれについて分節し、観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ろうとすることは、児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目的とする道徳科の評価としては、妥当ではない」

↓ だから…

「～な判断をしている。」「～な心情をもっている。」「～する実践意欲をもっている。」などのルーブリック案は、妥当ではない

3. パフォーマンス評価

(4) 狭義のパフォーマンス評価：道徳性に係る成長の様子の把握

3章4節1～3項で示したようなルーブリック案を用いて、総括的にパフォーマンス評価を行えば、各教科等ともある程度の整合性がとれ、「道徳性に係る成長の様子の把握」ができる。

↓ ということは…

道徳科の「指導と評価の一体化」の実現に資すると考える。

4. 実践研究の問題と目的

学習評価の在り方（報告）によると、
「学校全体で組織として学習評価やその結果を受けた学習指導の工夫改善の取組を促すとともに、教育課程や校内体制の改善などを促す」が「キヨラム・マネジメント」も併せて重要」（下線は筆者）

↓ そのために…

国立教育政策研究所は「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」を作成している

5. 「評価の視点及びその趣旨」の作成

(1) 児童生徒の学習状況の把握：広義のパフォーマンス評価

評価等（報告）によると、

「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、

物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、

自己（人間として）の生き方についての考えを深める」という学習活動における

児童生徒の具体的な取組状況を（中略）学習活動全体を通して見取る（下線は筆者）

↓ そこで…

どちらのルーブリックにも「道徳的諸価値について理解している。」という段階を設定し、

「道徳的諸価値について理解している【価値理解】」という項目も

4段階のルーブリックで設定した（図2）

5. 「評価の視点及びその趣旨」の作成

(1) 児童生徒の学習状況の把握：広義のパフォーマンス評価

段階	道徳的諸価値について理解している【価値理解】
1	道徳的諸価値についてあまり理解していない。
2	道徳的諸価値について少し理解している。
3	道徳的諸価値について理解している。
4	道徳的諸価値についてよく理解している。

図2 「児童生徒の学習状況の把握」に関する広義のパフォーマンス評価を行うための「評価の視点及びその趣旨」のルーブリック②

5. 「評価の視点及びその趣旨」の作成

(1) 児童生徒の学習状況の把握：広義のパフォーマンス評価

現場の教師の負担が少なく、授業者以外の他の教員も客観的な評価ができるように、

内容項目ごとのルーブリックは作成せず、ワークシートの記述から評価を行う

↓ そして…

○「これまでの自分と比べてどんなことがわかったか」

○「自分はこれからどうしたいと思うか」

という記述欄を設定し、【多面的・多角的】【自我関与】の評価を行う

↓ さらに…

道徳的諸価値への理解を基に記述している場合は、

「道徳的諸価値について理解している」と【価値理解】の評価をする

5. 「評価の視点及びその趣旨」の作成

(1) 児童生徒の学習状況の把握：広義のパフォーマンス評価

【価値理解】については、児童が自己評価できるように、

ワークシートに「本時でねらいとする道徳的価値について、学びを深めることができたか」を

4件法で問う欄を設置する

例. B「友情、信頼」の授業で、

「今日の授業を通して、「友だちを大事にする」ということの大切さを考えることができたか」

5. 道徳科の評価と各教科等の評価

(2) 道徳性に係る成長の様子の把握：狭義のパフォーマンス評価

①学校の教育目標

実践校のA県B市立C小学校の学校の教育目標の中から、

「徳：だれとも仲良くできる子」を抽出する

↓ そして…

本研究の対象が小学3年なので、

B「友情、信頼」の第3学年及び第4学年の内容項目の文言である

「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」の

文末を「～することから「～している」に変えてルーブリック案を作ると、

「友達と互いに理解し、信頼し、助け合っている。」になる

5. 道徳科の評価と各教科等の評価

(2) 道徳性に係る成長の様子の把握：狭義のパフォーマンス評価

①学校の教育目標

↓ それを踏まえ…

目指す児童像の文言をアレンジして、

「だれとも仲良くしている。」というルーブリックを作成

↓ さらに…

教員の見取りだけでは、日常生活全般からの評価は難しいので、

「だれとも仲良くしている。」という項目を作成して、

児童の自己評価も行う

5. 道徳科の評価と各教科等の評価

(2) 道徳性に係る成長の様子の把握：狭義のパフォーマンス評価

②学校の道徳教育の重点目標

実践校では、道徳教育の重点目標の「自他の命を大切にすることの育成」を基に、

A～Dの4つの視点から低中高学年ごとに、学校の道徳教育の重点目標を設定している

↓ そこで…

本研究の対象が小学3年なので、中学生の重点目標を抽出し、

その文末を「～する」から「～している」にしたものをルーブリックの基本とする

↓ さらに…

教員の見取りだけでは日常生活全般からの評価は難しいので、

児童が自己評価するアンケート項目を作った（図3）

5. 道徳科の評価と各教科等の評価

(2) 道徳性に係る成長の様子の把握：狭義のパフォーマンス評価

<学校の道徳教育の重点目標、単習生>
A. 善悪を判断して行動し、自決して調度のある生活をする。
B. 相手を思いやって親切にし、誰に対しても真心をもって接する。
C. 約束やまもりを守り、進んでみんなのために働く。
D. 自然や動物植物など、生命あるものを大切にしている。

↓

<「評価の視点及びその趣旨」のルーブリック>
A. 善悪を判断して行動し、自決して調度のある生活をしている。
B. 相手を思いやって親切にし、誰に対しても真心をもって接している。
C. 約束やまもりを守り、進んでみんなのために働いている。
D. 自然や動物植物など、生命あるものを大切にしている。

↓

<児童の自己評価のアンケート項目>
A. やってよいことあることを自分で考えながら生活している。
B. だれに対しても相手の気持ちを考えようとして生活し、思いやりをもって親切にしている。
C. やくそくやまもりを守り、自分からみんなのためにはたらいている。
D. しんごんの植物や動物、身近な人など、生命あるものを大切にしている。

図3 学校の道徳教育の重点目標における、「道徳性に係る成長の様子の把握」に関する狭義のパフォーマンス評価を行うための「評価の視点及びその趣旨」のルーブリック

5. 道徳科の評価と各教科等の評価

(2) 道徳性に係る成長の様子の把握：狭義のパフォーマンス評価

③学年の道徳教育の重点目標

実践校の第3学年の重点指導項目が、B「感謝」

↓ だから…

B「感謝」の第3学年及び第4学年の内容項目の文言である

「家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。」の

文末を「～すること」から「～している」に変えてループバックを作ると、

「家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接している。」になる

5. 道徳科の評価と各教科等の評価

(2) 道徳性に係る成長の様子の把握：狭義のパフォーマンス評価

③学年の道徳教育の重点目標

↓ さらに…

教員の見取りだけでは評価が難しいので、

「家族などの生活をささえてくれている人たちや、今の生活を作ってきたお年よりに対して、感ししながら生活している。」という項目を作成して、

児童の自己評価も行う

5. 道徳科の評価と各教科等の評価

(2) 道徳性に係る成長の様子の把握：狭義のパフォーマンス評価

④複数時間のユニット学習・総合単元的道徳学習の単元目標

実践校では小学3年2学期に、

総合単元的道徳学習「人のためにはたらくことについて考えよう」を実践した。

単元目標は、

「社会科のスーパーマーケットで働く人や消防署で暮らしを守るために働く人に関する学習と

関連づけながら、働くことの大切さを実感させ、

自分たちの生活を支えてくれている人について考えさせる。」で、

重点指導項目が、C「勤労、公共の精神」

↓ だから…

5. 道徳科の評価と各教科等の評価

(2) 道徳性に係る成長の様子の把握：狭義のパフォーマンス評価

④複数時間のユニット学習・総合単元的道徳学習の単元目標

C「勤労、公共の精神」の第3学年及び第4学年の内容項目の文言である

「働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。」の

文末を「～すること」から「～している」に変えてループバックを作ると、

「働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働いている。」になる

↓ さらに…

教員の見取りだけでは評価が難しいので、

「はたらくことの大切さを考えながら、自分からみんなのためにはたらく。」という項目を

作成して、児童の自己評価も行う

6. 方法

(2) 道徳性に係る成長の様子

①調査対象

A県B市立C小学校の3年生108名（男子49名；女子59名）と

抽出学年の学級担任3名を対象とした質問紙調査を、

2学期の総合単元的道徳学習実践後の2020年12月に実施した。

質問紙調査は学年、氏名を記載して行った。

欠損値があるものを除外した結果、

得られた103名（男子47名；女子56名）を有効回答とした（有効回答率95.37%）。

6. 方法

(2) 道徳性に係る成長の様子

②調査内容の概要

小学校学習指導要領（平成29年）の第3章の「第2 内容」の記載事項の

文末を「～すること」から「～している」と変換したものや、教育活動の目標の記述を参考に、

筆者がループバックを作成し、児童に合わせた言葉遣いの質問項目を用いて、

「道徳性に係る成長の様子に関する意識調査」を実施した。

「学校の教育目標尺度」1項目、「学校の道徳教育の重点目標尺度」4項目、

「学年の道徳教育の重点目標尺度」1項目、

「総合単元的道徳学習の単元目標尺度」1項目、「道徳科の学習状況尺度」2項目

という5つの尺度から構成し、4件法で回答を求めた。

7. 結果と考察

(1) 児童生徒の学習状況

表1 児童生徒の学習状況に関する平均値と標準偏差

項目	内容項目	題材名	多面的・多角的			自己期許			
			n	M	SD	M	SD	M	SD
9年	C(1)勤労・公共の精神	誰の仕事を頼むとよきに	34	3.85	0.45	3.66	0.47	3.77	0.42
	C(2)勤労・公共の精神	きまぐれな日々	35	3.77	0.42	3.34	0.47	3.74	0.44
10年	A(1)道徳教育	道徳の力	35	3.85	0.45	3.51	0.56	3.60	0.40
	B(1)生活の中での道徳	大切なものは何ですか	34	3.68	0.38	3.50	0.78	3.76	0.40
11年	B(2)道徳教育	水の中	35	3.85	0.45	3.51	0.42	3.77	0.42
	C(3)生活の中での道徳	目の前は世界	34	3.85	0.35	3.38	0.49	3.82	0.38
12年	C(4)生活の中での道徳	目の前は、目の前、目の前	35	3.68	0.40	3.46	0.50	3.60	0.47
	B(4)道徳教育	ぼんちん	35	3.76	0.40	3.29	0.51	3.63	0.45
13年	B(7)道徳	みんなが楽しくやろう	33	3.58	0.74	3.27	0.64	3.76	0.40
	C(1)道徳教育	よくぞお前さん	35	3.85	0.50	3.27	0.47	3.70	0.40
14年	C(2)道徳教育	笑顔とからのしつらん	35	3.76	0.35	3.29	0.54	3.74	0.50
	C(3)道徳教育	笑顔とからのしつらん	35	3.76	0.35	3.29	0.54	3.74	0.50
15年	A(4)道徳教育	三年生児童	34	3.56	0.74	3.38	0.64	3.71	0.47
	B(2)道徳教育	まわりをきいて	34	3.85	0.51	3.40	0.52	3.66	0.35
16年	C(1)道徳教育	文化の海沿いのふらふら	34	3.68	0.50	3.50	0.56	3.82	0.50
	C(2)道徳教育	本をよめる児童	33	3.82	0.52	3.33	0.47	3.70	0.48
平均値合計の平均値				3.76	0.54	3.42	0.56	3.78	0.45
標準偏差				0.39	0.33	0.35	0.47	0.44	0.47

7. 結果と考察

(1) 児童生徒の学習状況

①多面的・多角的

【多面的・多角的】の評価は、

全体を見ると平均得点合計の平均値がM=3.74、標準偏差SD=0.10で、

高い数値だった

↓ もしも…

【多面的・多角的】の評価が低いなら、指導と評価を一体化するために、

・問題解決的学習 ・役割演技 ・ペアワークやグループワーク ・相づち 等
を取り入れてはどうか？

7. 結果と考察

(1) 児童生徒の学習状況

② 自我関与

【自我関与】の評価は、

全体を見ると平均得点合計の平均値がM=3.42、標準偏差SD=0.15で、高い数値だったが、【多面的・多角的】より低かった

↓ 細かく見ると…

自我関与を促しても、

「～が大切だとわかった」と記述した児童が多く、

「これから～したい」という意欲をもつことは難しいようだった

7. 結果と考察

(1) 児童生徒の学習状況

② 自我関与

↓ もしも…

【自我関与】の評価が低いから、指導と評価を一体化するために、

・導入で自分の生活を振り返る ・興味を引く写真や映像を提示する

・登場人物の心情理解に終始しない ・展開後段で自分に引きつけて考えさせる

・問題解決的学習 ・役割演技 ・児童生徒の身近なテーマや興味のあるものを扱う

・複数時間の授業のユニット化 等

を取り入れてはどうか？

7. 結果と考察

(1) 児童生徒の学習状況

③ 道徳的価値理解

【価値理解】の評価は、児童による自己評価で実施

全体を見ると平均得点合計の平均値がM=3.78、標準偏差SD=0.04で、高い数値だった

↓ そうすると…

【多面的・多角的】【自我関与】で評価した児童の学習状況は、道徳的価値についての理解を基に考えられるものであるため、

その評価が高かったことと整合性がとれているのでは？

7. 結果と考察

(1) 児童生徒の学習状況

③ 道徳的価値理解

↓ もしも…

【価値理解】の評価が低いから、指導と評価を一体化するために、

・発問が、本時で扱う道徳的価値への理解を促すものになっているか

・教材が、内容項目やねらいに対して適切か

・指導過程が、国語的な文章理解や心情理解にとどまっていないうか 等

について配慮してはどうか？

7. 結果と考察

(1) 児童生徒の学習状況

④ 学習状況評価全体から

○ 振り返りの記述だけを過剰に評価せず、

授業の発言や顔まなどの反応からも総合的に評価することが、学習状況評価の妥当性を高めるのでは？

○ 1時間の授業ごとに評価を完結させず、

個人内評価を継続的に大きく行ったり、

全体的な傾向を総括的な学習状況評価から検討したりすることが

必要なのでは？

7. 結果と考察

(2) 道徳性に係る成長の様子

表2 道徳性に係る成長の様子に関する平均値と標準偏差

要 項 目	児童 (n = 185)		教師 (n = 3)		平均値差
	M	SD	M	SD	
学習態度 ① だれでもなかよくしている	3.63	0.42	2.67	0.47	0.96
学習態度 ② やつてよいことか悪いことを自分で考えながら実践している	3.26	0.72	2.67	0.47	0.60
学習態度 ③ だれに頼りなくても相手の気持ちを考えながら話し、思いやりをもって関心している	3.37	0.68	3.00	0.00	0.37
④ やつてよくやまりを守り、自分からみんなのためにがんばっている	3.18	0.69	2.33	0.47	0.85
⑤ しづめの継続、身近な人や動物など、命あるものを大切にしている	3.76	0.53	2.67	0.47	1.09
学習態度 ⑥ 言葉など、礼儀をきまきまできている人か、今の礼儀を身につけてき	3.67	0.64	2.33	0.04	1.34
学習態度 ⑦ できぬお節まかりに誇り、楽しみながら実践している	3.27	0.73	2.33	0.04	0.94
学習態度 ⑧ はたらくことの大切さを考えながら、自分からみんなのために	3.27	0.73	2.33	0.04	0.94
学習態度 ⑨ がんばっている	3.37	0.74	3.33	0.47	0.04
道徳科学 ⑩ 道徳とくちくちようで、他の人の意見を聞き入れながら、いっしょに	3.37	0.74	3.33	0.47	0.04
道徳科学 ⑪ 道徳から考えたり、いっしょにすることによって考えたりしている	3.43	0.60	2.67	0.04	0.76
道徳とくちくちようで学ぶことを、自分の生活につなげながら実践	3.43	0.60	2.67	0.04	0.76
平均得点合計の平均値	3.44	0.68	2.67	0.58	0.77
標準偏差	0.39	0.67	0.33	0.36	0.37

7. 結果と考察

(2) 道徳性に係る成長の様子

児童の自己評価を見ると、

全体では平均得点合計の平均値がM1=3.44、標準偏差SD=0.19で、

高い数値だった

↓ しかし…

学級担任による評価は、

平均得点合計の平均値がM2=2.67、標準偏差SD=0.31で、

全体的に数値が低く、ばらつきがあった

↓ さらに…

児童と教師の評価の平均値差M1-M2は、

平均得点合計の平均値がM=0.77、標準偏差SD=0.37で、大きく離れている。

7. 結果と考察

(2) 道徳性に係る成長の様子

↓ これは…

調査対象が小学3年生のためメタ認知が発達していないからでは？

↓ ここで…

小学校学習指導要領解説総則によると、いわゆる「メタ認知」に関わる力とは、

「自分の思考や行動を客観的に把握し認識する力」（下線は筆者）

↓ とはいえ…

児童の自己評価から、教員では気づけない傾向に気づける可能性もあるので、

児童の自己評価と教員の評価を比較する意義がある

7. 結果と考察

(2) 道徳性に係る成長の様子

①学校の教育目標

学校の教育目標から作成した「④だれとでもなかくしている」の項目は、児童の自己評価の数値が高く、児童は現状に概ね満足していると推察できた

↓ しかし…

教師との平均値差はM1-M2=0.96と高かった

↓ 指導と評価を一体化するためには…

【B (9) 友情,信頼】だけでなく、

【B (10) 相互理解,寛容】【C (12) 公正,公平,社会正義】等でも、自身を振り返る力を育てる必要性があるのでは？

7. 結果と考察

(2) 道徳性に係る成長の様子

②学校の道徳教育の重点目標

学校の道徳教育の重点目標A～Dから作成した②～⑤の項目は、児童の自己評価の数値が、Dの⑤は高かった

↓ しかし…

教員の評価は、特にCの④、Dの⑤の数値が児童より大きく低かった

↓ 指導と評価を一体化するためには…

【C (11) 規則の尊重】【D (18) 生命の尊さ】に関する学びを深める指導の改善が必要なのでは？

7. 結果と考察

(2) 道徳性に係る成長の様子

③学年の道徳教育の重点目標

学年の道徳教育の重点目標から作成した「⑥家族など、生活をささえてくれている人や、今の生活を作ってくれたお年よりに対して、感しやしながら生活している」の項目は、児童の自己評価の数値が高かった

↓ しかし…

教師との平均値差は、M1-M2=1.34と最も大きく、

【多面的・多角的】【自我関与】の学習状況評価も高くなかった

↓ 指導と評価を一体化するためには…

児童の認識ほど学びが深まっていないので、より学びを深める指導が必要なのでは？

7. 結果と考察

(2) 道徳性に係る成長の様子

④複数時間のユニット学習・総合単元的な道徳学習

2学期に実施した、社会科の働く人の学習と関連づけた

総合単元的道徳学習「人のためにはたらくことについて考えよう」の単元目標から作成した

「⑥家族など、生活をささえてくれている人や、今の生活を作ってくれたお年よりに対して、感しやしながら生活している」の項目は、

児童の自己評価・教師の評価ともに数値が高くなかった

↓ これは…

新型コロナウイルス感染症により体験活動をほとんど自粛していたため、人のために働く意欲が高まらなかったからでは？

7. 結果と考察

(2) 道徳性に係る成長の様子

④複数時間のユニット学習・総合単元的な道徳学習

↓ 指導と評価を一体化するためには…

働くことの大切さが実感できる体験活動を取り入れたり、

身近な集団において働くようなキャリア教育活動を増やしてはどうか？

7. 結果と考察

(2) 道徳性に係る成長の様子

⑤道徳科の学習状況

道徳科の学習状況から作成した項目では、

⑧の【多面的・多角的】は、

児童の自己評価と教師との平均値差がM1-M2=0.04と最も小さかった

→多面的・多角的な学びを深める教師の指導が、児童に有効だったのでは？

⑨の【自我関与】は、

児童の自己評価と教師との平均値差がM1-M2=0.76と大きかった

→より自我関与できる働きかけの工夫が必要

7. 結果と考察

(2) 道徳性に係る成長の様子

⑥道徳性に係る成長の様子評価全体から

○個別最適な学びを実現するには、

児童の自己評価全体の平均値からだけでなく、

個人ごとの自己評価結果からも指導の改善を図るとよいのでは？

○平均値と標準偏差だけでなく、

統計的手法も用いれば、

指導改善の手立てがより効果的に考察できるのでは？

8. まとめと今後の課題

○ルーブリックを作成することで、

学習状況や道徳性の成長の様子の評価を行うことができた

○評価の結果を踏まえて、指導の改善の方針を考察することができた

今後は、総括的評価だけでなく、診断的評価や形成的評価においても、

ルーブリックに基づくパフォーマンス評価の在り方を検討することで、

児童自身が自己調整しながら学びを深められるようなやり方を研究していきたい。

～ご清聴ありがとうございました～

中野先生の提案について協議・質疑応答

Q 作成したルーブリックの枠に入らないけれど、感覚的に見て「子どもがよいこと言っていたな、やっていたな」のように、人間的によいと思ったことをどう捉えるのですか？

A 今回は、授業の発言とかを取り入れずに、あえてワークシートだけで実践した。そのため、ルーブリックを広めに作るように配慮した。感想だけを書かせると、その子の学びをちゃんと読み取れないことがあるため、二つの記述欄を設けた。

書きことが苦手な子は、1行しか書いていないが、心の中でものすごく学んでいる子がいると思う。そのような子には、ルーブリックにこだわりすぎないように気をつけた。

ルーブリックを緩めに作っておく。子どもたちの見取りがしやすくなる。あまりに詳しくしてしまうと、観点別評価になってしまう。評価基準に近くなってしまうため緩さが大切だと思う。

Q 形成的評価は記録に残さないもの、総括的評価は記録に残すものと捉えていますか？

A 診断的、形成的、総括的評価は、すべて記録に残すものだと思う。記録に残し、そして、指導の改善に活かしていく。

Q 子どもの瞬間的なパフォーマンスを見る際のコツ、ポイントを教えてください。

A ルーブリックを見直し、パフォーマンスをよりよく見とれるようにしていった。複数名、複数クラスで評価すると、枠に入らないけれどよいことを書いている子がいることに気付いた。その都度、ルーブリックを見直した。他の先生とルーブリックを調整することも大事かもしれない。

Q 評価の精度を上げるためのお考えを教えてください。

A モデレーションも然り、指導案の検討も複数の先生で行うことが1番よい。精度を上げるためには、何回も行うこと。他の教科等の評価方法を研究することが大事。他教科等との整合性を取れるようにする。

全教員で共通理解を図りつつ評価を行っていくと、評価の妥当性も高まると思う。

Q この研究で、どのような子どもを育むことを意図しましたか？

A 今回は、統計的な手法を入れた実践研究を行った。学校の道徳教育目標、総合単元的なテーマ自体が目指す児童である。

Q 3ヶ月間の研究を通して、教師の指導のためになったこと、子どもの学びのためになったことを教えてください。

A 1学期の中で、子どもがとてもよく育っていた。今回は、形成的評価ではなく、総括的評価に注目したため、平均値には大きな変動がなかった。

ワークシートの記述例を学級全体に紹介すると、そのような記述が広がった。しかし、教師がそのような言ったため書いただけ、形だけを覚えただけでも考えられる。ですから、評価は難しいと感じている。

.....

特別の教科 道徳

子どもと 教師がつくる 道徳の授業

～「なるほど!」がある授業をめざして～

横浜国立大学附属鎌倉小学校
根本 哲弥

【1】 はじめに

～子どものすがたより～

1年間の授業を終えた子どもの感想

道徳とは「**答えがあるようでない、ないようである授業**」であるとわたしは思います。道徳では、日常で**当たり前なこと、有りうる**ことが多く、自分の考えとみんなの意見を比べあって考えが広がり深まり楽しくなっています。～中略～私はなぜ道徳が深まるのかについて一つ見つけてしまった気がしました。それは、道徳の教科書は**お話が途中でしか書いていないから考える力が大きく変わった**と思いました。この1年で大きく変わった**クライマックス教科**だと思いました。**この世は道徳の材料**でできていると思います。～中略～道徳という教科が世界中にあればいいのになと思います。

Fさん

1. はじめに

主体的な学び → 問い (問題意識)

ムムッ! → どういうことだ!?

- ・当たり前を当たり前と思わない。(概念崩し)
- ・発想を変えて考える。

※よい(悪い)とされていることをあえて否定的(肯定的)に考える

※基本的な考え方

よさに向かう行為と行為を生む心を考えていく授業

(理由) ・行為はよくても心はよいとは限らない。
・行為は状況によって異なる。

自分自身の体験や理想とする生き方から考える(拠り所)

道徳的価値の自覚

主体的 → 対話的 → 深い学び

はじめ → なか → おわり

テーマ → 考え → 考え

おはなし → 水準の底上げ → 私たちの考え

レベルアップ!

【2】 授業法研究

～主に「発問」、「板書」～

2. 授業法研究 ～発問・問い返し～

- ・カテゴリーを意識すると考えやすい。
- ・ねらいに迫れるかどうか。
- ・屁理屈と思われる発問がよい発問を生むことも!?

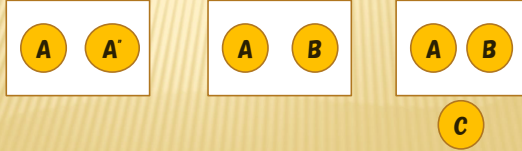
2. 授業法研究 ～発問・問い返し～

☆比較

「違い」がよく見える

→物事の特徴や考え方がより明らかになる。

登場人物の前後の比較 登場人物同士の比較 新たな比較対象



2. 授業法研究 ～板書・道徳ノート～

①記録

②練習

③思考

板書・道徳ノート=〇〇するための方法

④評価

⑤表現

⑥つなぎ

2. 授業法研究

板書は思考を広げ深めるための手助け

それぞれの特徴を知って活用する

考え方のヒント①(絵・図)

<p>1. 表情や数字で考える</p>	<p>2. 山や円を使って考える</p>	<p>3. 色や矢印を使って考える</p>
<p>4. グラフを使って考える</p>	<p>5. 階段を使って考える</p>	<p>6. 言葉をつなげて考える</p>
<p>7. 見方を変えて考える</p>	<p>8. 図にして考える①</p>	<p>9. 図にして考える②</p>

【3】教材理解

発問や板書が向かうところ...

～「多面的多角的」について～

3. 教材理解 ～多面的多角的～

きまり

道徳の拠り所は自身の経験(個別的)

共通解

唯一解

正解

納得解

最適解

選ぶの目出したい解

状況によって異なる

3. 教材理解 ～多面的多角的～

自分が納得できる。



納得解



みんなが納得できる。

教師が指導者としてではなく、一人の人間として教材を広く深く読む

教師が指導者としてではなく、一人の人間として教材を広く深く読む

手掛かりとして

- ①目に見える行為と目に見えない行為を生む心、人間の強さと弱さから読む
- ②中心となる内容項目と関連する内容項目から読む
- ③人物同士の関係性から読む(人物相関図)
- ④教材前と教材後の世界を意識して読む

教材を多面的・多角的にとらえる

3. 教材理解 ～もとに向かう授業作り～



▲ ... 「この発問(方法)をすると、子どもたちが盛り上がりそうだ!!」

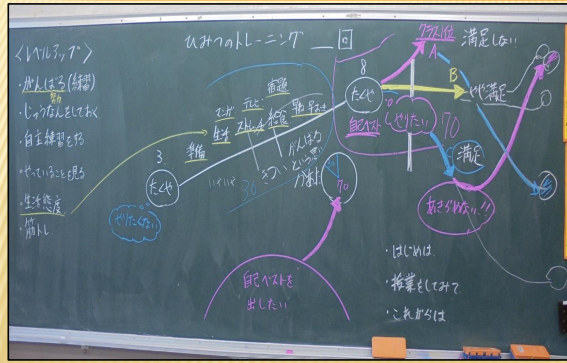
○ ... 発問(方法)の意図がおらいにつながるか吟味し、精選する。

【4】 実践紹介

～「ひみつのトレーニング」～

【ひみつのトレーニング】

「光文書院 ゆたかな安心・5年」



【ひみつのトレーニング】

「光文書院 ゆたかな安心・5年」

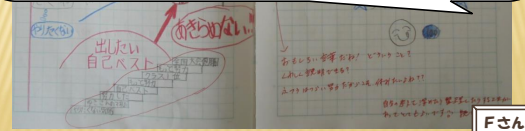
<ひみつのトレーニング ～あらすじ～>

陸上部に入って1年、足が速かったたくやさんは、タイムが伸びず、悩んでいた。その姿をみた由紀さんは、たくやさんに声をかけた。由紀さんがみるみるタイムが速くなるのは、柔軟運動や生活リズムが関係していることに気付いたたくやさんは、自分も早寝早起き、食事の取り方などを改めることにした。2か月後のある日、タイムを計ると自己最高タイムを記録したたくやさんは、ガッツポーズをして喜び、由紀さんにもっこりと笑って声をかけてきた。

【ひみつのトレーニング】

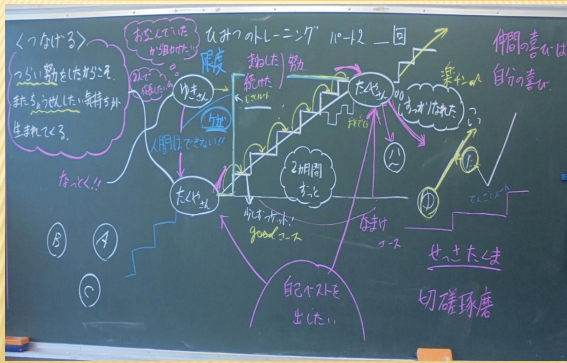
「光文書院 ゆたかな安心・5年」

はじめ授業をしてみて、レベルアップには「～～する」とかが出たけど、授業をしてみると、たくやさんはとても**自己ベストを出したい気持ち**が伝わってきました。この**つらい努力をしてからこそ、また挑戦したい気持ち**が生まれてくるんだと思います。これからは、私もバレーで柔軟などを人一倍頑張りたいと思いました。たくやさんのようにいいところをマネしてレベルアップにつながると思います。

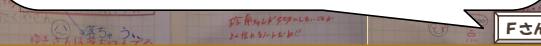


Fさん

【ひみつのトレーニング パート②】



私は、授業をしてみて、**前の授業とつながった**と思います。私の前回の感想で、みんなが納得してくれて、とても楽しい授業になりました。ひみつのトレーニングは何度やってもいい授業になると思いました。色々な疑問が生まれてとてもよかったです。挑戦したい気持ちが生まれてくるとは、**失敗してもまたやりたい気持ちを自分なりに考えた言葉**です。たくやさんではなく、ゆきさんも結構関係していることが分かりました。今日授業をして、またこんな楽しい授業をしたいです。



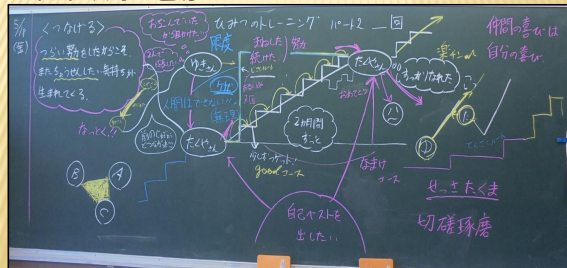
Fさん

】時間の授業だけでなく、連続して考えることで、考えをさらに広げたり深めたりすることができました。特に、「ひみつのトレーニング」では、人間には、「失敗してもまたやりたい」という気持ちがあるということ自分の言葉でまとめ、自らの成長に喜びを感じていました。

【ひみつのトレーニング】

「光文書院 ゆたかな安心・5年」

- (1) 構造図・階段
- (2) 表情
- (3) 矢印・色分け



【ひみつのトレーニング】

「光文書院 ゆたかな安心・5年」

(1) 比較

- ・はじめのたくやさんとおわりのたくやさんのレベルはいくつ？
- ・A・B・Cの三つの違いは何か？

(2) 仮定 (比較)

- ・じごくルートがあるということは、天国ルートもあるの？

(3) 肯定・否定

- ・すっかりなれていいの？ つらい努力してないよ？
- ・はじめからテレビも漫画も見ずに、休みの日も休まず練習したほうがよいのでは？ (否定)
- ・たしかに何もしなくても、これから成長するから高校生くらいになると自然と足が速くなるね！ (肯定)

【5】 おわりに

～子どものすがたより～

1年間の授業を終えた子どもの感想

道徳の意味とは、人としての在り方、そして生き方について知ることだと思いました。～中略～道徳は、みんなでやってそれぞれがそれぞれの考えを深め、広げる。考えが深まり、広がることで道徳の楽しさも増え、考えを深めた人、広げた人、もとなる考えを作った人、それを聞いたすべての人が楽しさを実感することができるのだと思いました。また、図や表、グラフなどを使うこともとても役立ちます。図や表などを使って、最終的に深く、広い考えをそれぞれが持つことができれば、それが道徳のあるような良い答えといってもいいんじゃないかと思いました。

Tさん

【道徳の授業を考える手順】

授業の
もと

- (1) 教材を多面的・多角的にとらえる。(教材理解)
- (1) 子どもの実態を把握する。(子ども理解)
- (1) 内容項目を解釈し、ねらいを立てる。

授業の
方法

- (2) 中心発問と補助発問(問い返し)、導入を考える。
- (2) 板書を考える。
- (3) 子どもたちの学び合いの場を考える。(書く・話し合う)
- (4) 子どもたちの姿容が見られたり、今後の生活に繋がれたりするような終末・発展を考える。

特別の教科 道徳

子どもと 教師がつくる 道徳の授業

～「なるほど！」がある授業をめざして～

ありがとう
ございました!

横浜国立大学附属鎌倉小学校
根本 哲弥

根本先生の提案について協議・質疑応答

Q 教師が考える授業の流れから外れ、引っ掛かりを感じる子どもへの対応は？

A 授業が終わった時のまとめの時間に、道徳ノートにそのような子の考えを表現させている。

Q 振り返りの型(はじめは～、授業を通して～、これからは～)で毎回書かせているのか？ 教材によって変えているのか？ 3つの観点で書かせる際のポイントはありますか？

A 書きにくい子への対応として、4、5月に型を示したことがあった。しかし、型を示すのは教師の押し付けとすることがあった。だから、毎回ではない。授業によっては、「感じたことを書けばよいよ」と伝えることもある。

Q 子どもの振り返りへのコメントに意識していることは？

A 教師の考えを書くことは避けている。子どもの新しい考えに対して、「面白いね」「新しい考えだね」「こういう場合はどうなんだろう」などと書くことにとどめている。

Q 板書する際に気をつけているところは？ 色分けの意味は？

A 方法には全てメリットとデメリットがあると考えている。言葉より図で示した方が分かりやすいと思った場合に板書に取り入れることがある。色分けにも絶対的な基準を設けていない。赤をよい意見、青をそうではない意見などのように子どもに悟られないように気を付けている。

Q 子どものつぶやきなどを含めてどこを見えていますか？

A 手をぴっと挙げる子も含めて、中途半端に手を挙げている子に注目している。その子を授業のどの場面で意

図的に指名しようかなどを考えている。

また、黒板前から教師が消える場面を設けている。そのことで、子どものつぶやきがより聞こえることがある。

◎お二人の提案は、まさに「一人ひとりの生き方を励まし、勇気づける授業」に関する提案でした。

提案者の先生、ご参会いただいた皆さん、どうもありがとうございました。